

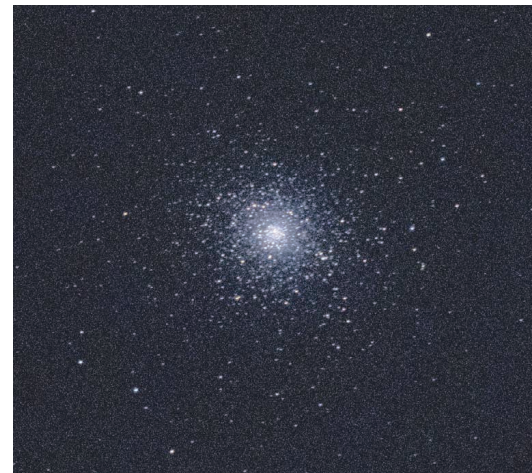
「ほっとやまはく」 タイム⑥2



春のメシエマラソン

メシエマラソンって聞かれたことがありますか？ 42・195^キを走るマラソンではありません。メシエマラソンとは、天文分野で春によく聞かれる言葉で、メシエ天体を春分の日あたりに一晩で107個を見ようというちょっと過酷な天体観望の楽しみ方なのです。一晩ですべてを見ようとするとスピードとペース配分が大切になってきますので、マラソンに例えられているわけです。

M5球状星団



M42オリオン大星雲



M45散開星団（すばる）



M31アンドロメダ銀河



3月中旬のポン・ブルックス彗星

メシエ天体とは？

「メシエ天体」とは、主に18世紀のフランスの天文学者シャルル・メシエが、彗星を探索するのの際して、彗星と誤認される銀河などの天体110個（うち存在不明が3個）をカタログにまとめたリストのことです。

す。特撮テレビ番組のヒーローの故郷でお馴染みのM78星雲というようにMの後にカタログ順に数字が付けられています。メシエ天体は春の星座付近に多く見られます。

どんな天体があるの？

メシエ天体は大きく分けると三つに分類さ

れます。それぞれの特徴を簡単に紹介します。

①星団

メシエ天体の中で一番多いのが「星団」です。星団とは、互いの重力によりまとまった構造を持つ恒星の集団のことです。まばらな散開星団や恒星が数十万個集まった球状星団があります。これらは、われわれの所属している天の川銀河の内部や周辺部に存在しています。

②銀河

次に多いのが「銀河」です。銀河は見かけの形状や明るさに基づいて多くの形態に分類されます。一般的な銀河は、太陽のような

恒星が1000億個以上集まった星の集団で、天の川銀河のお隣のM31アンドロメダ銀河が有名です。お隣と言ってもその距離は光のスピードで約230万年と言われていますので、銀河の多くはとっっても遠くにあるのです。

③星雲

星間物質（主にガス）が周囲より高い密度で集まっており、近くにある恒星の光などを受けて明るく輝いている雲のように見える天体です。中には星が一生を終え、超新星爆発を起こした残骸や高温の白色矮（わい）星を取り巻くドーナツ形に見える惑星状星雲などもあります。

メシエカタログに収められた天体には、アマチュア用の小型望遠鏡でも楽しめる天体が多く含まれています。天体望遠鏡をお持ちの方はぜひメシエマラソンにチャレンジして、宇宙の広がりや歴史について思いをはせてみてください。山口博物館では5月に「春のメシエ天体を見る会」を開催し、メシエ天体の代表的なものを観望します。興味のある方は当館ホームページよりお申し込みください。

岩村和政（学芸員・天文担当）
▽次回は5月1日です。

山口県立山口博物館
TEL083-922-0294
月曜休館（祝日の場合は翌日）。最新情報はホームページで。

